

賛美歌誕生秘話「主は命を」

下の絵は、17世紀の画家ドミニコ・フェッティが描いた、「エッケ・ホモ(ラテン語で“この人を見よ”の意味)」という作品です。十字架にかかる直前のイエスが描かれており、その下にはラテン語でこう記されています。“私はあなたのために命を捨てた。あなたは私のために何をしたのか”。この絵を見た多くの人が、この言葉の中にキリストからの語りかけを受け取り、心を揺り動かされ、人生を尽くしてキリストのために生きていきました。

賛美歌「主は命を」の歌詞は、まさにこのキリストの語りかけを彷彿とさせます。作者はフランス・ハヴァーガルという、19世紀のイギリス人女性です。彼女もまた「エッケ・ホモ」の絵に感化されたと言われています。

彼女は、幼い頃から音楽の才能に恵まれ、7歳にして賛美歌を作り始めていた程でした。そんな彼女に、転機が訪れたの



は11歳のときでした。それは、母親の死でした。その後から彼女は、神様を愛そうとしても愛せない自分の姿に苦しみ続けました。しかしついに、キリストを救い主として信じ、神様の救いをいただいたのです。キリストは、十字架にかかり、ご自分の命を捨ててくださいました。それは、十字架を信じる者が誰でも、魂の救いをいただくためでした。彼女の中に、キリストの救いをいただいたことへの溢れる感謝が詩に書き表され、賛美歌「主は命を」となって教会で歌われるようになりました。

“私はあなたのために命を捨てた”と、キリストは今も私たちに語りかけておられます。そして、それに応える人には誰にでも、魂の救いを与えてくださるのです。

1. 主は命を 与えませり
主は血潮を 流しませり
その死によりてぞ われは生きぬ
われは何をなして 主に報いし
2. 主は御父の 許を離れ
わびしき世に 住み給えり
かくもわがために 栄えを捨て
われは主のために 何を捨てし
3. 主は赦しと 慈しみと
救いをもて 降りませり
豊けき賜物 身にぞ余る
ただ身と魂とを ささげまつらん



救いの泉から

フォークダンスの一つ、「マイム・マイム」をご存じですか。みんなで手をつないで輪になって“マイム・マイム・マイム・マイム・マイム・ベッサッソ”と歌いながら、軽快に踊るダンスです。運動会やキャンプなどで、踊った記憶がある人は多いのではないのでしょうか。曲の導入部分を聞くだけで、ウキウキしてくる人もおられるかもしれませんね。

「マイム」とは「水」、「ベッサッソ」は「喜びをもって」という意味で、いずれもヘブル語です。イスラエルなど、雨の少ないパレスチナ地方で、人々が井戸を掘り、水が湧き出たことを喜んで、歌い踊ったとされています。

実は、この言葉は次の聖書の言葉に由来しています。「あなたがたは喜びながら水を汲む。救いの泉から。」(イザヤ書12章3節)

暑い季節になると、のどが渇くことが多くなりますね。汗をかいて外から帰って、飲むコップ一杯の冷たい水のおいしいこと! のどの渇きが癒されます。けれども、時間がたつと、またのどが渇いてきます。物質の水には、

限界があるのですね。

しかし、渇くことがない水があります。それは、救いの泉から汲み上げる水です。そして、その水は、イエス・キリストが与えてくださるものです。

キリストは、今からおよそ2000年前にこの世に来られ、十字架にかかって死なれました。当時のユダヤ人指導者たちの妬みを買って処刑されたのですが、実は私たちすべての者の罪を背負って、私たちの身代わりに十字架で死なれたのです。

自分の罪を神様の前に悔い改め、イエス様の十字架が自分の罪のためだったと信じれば、私たちのすべての罪は赦されます。この罪の赦しの救いこそ、私たちのたましいを真に生かす永遠のいのちに至る水です。この救いの泉から湧き出る水は、私たちに平安と喜びを与え、まわりの人たちにも平安と喜びを分け与えていくようになるのです。

あなたも、救いの泉からいのちの水を汲み上げませんか。

教会のひとこま 花の日訪問

今年も6月の花の日に、子どもたちと一緒に、近くの交番と消防署にお花を届けました。コロナ禍の中でも、私達のために心を尽くして働いてくださっている方々に、感謝を表しました。神様の守りがありますようにと、心からお祈りしています。



教会の紫陽花

今年もあざやかに咲いてくれました。紫陽花もほほえみ返してくれているようです。



森繁 昇サマーコンサート Vol.19
8/29(日) 15:00~
ライブ配信も行います。詳細は次月号で。

宝塚栄光教会

牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com http://www.takara-eikou.com

希望のダイヤル(聖書のお話)

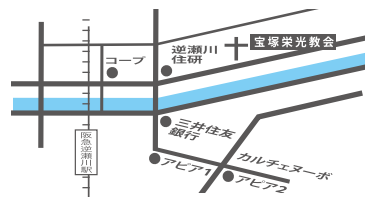
0797-77-3746

毎週更新。24時間つながります。ホームページからも利用できます。

礼拝 毎週日曜日

第一部 9:30~10:30

第二部 11:00~12:00



教会HP



礼拝動画



「ネジバナ ー初夏の野草ー」

初夏の日ざしが注ぐ草むらで ピンと背を伸ばした ネジバナを見つけた
伸びた茎に 花をらせん状に咲かせていくので ネジバナと呼ばれている

桃色や薄紅色 時に白色もみつけることもあるが やさしい花色だ
背だけは 10cmぐらいたろうか 大きくなっても 20cmぐらいた
ネジバナは 小さな 控えめな存在である
花は 5mmくらいの 小さな 小さなものだが
顔を近づけて よく見ると 美しい姿に驚く
ネジバナは エビネランのように 野生のランで
ラン科特有の 花の形をしている
カトレアやコチョウランと 同じような形なのだ
明るい太陽の下で 少し湿り気のある土地で 咲いている

花の後に種をつけるが 種は軽くて 埃のように空を舞って
地に落ちて増えていく 風媒花である
野原や畦道 芝生などで 見つけることが多い

以前 小さな子どもが 摘んだネジバナを
手ににぎっているのを 見かけたことがある
子どもの目に留まる花を いとおしく思う
時には 小さな花と ゆっくり語らう時間を 持ちたいと願う

はっきり言うておく

心を入れ替えて 子供のようにならなければ

決して天の国に入ることはできない

マタイ18章(聖書)